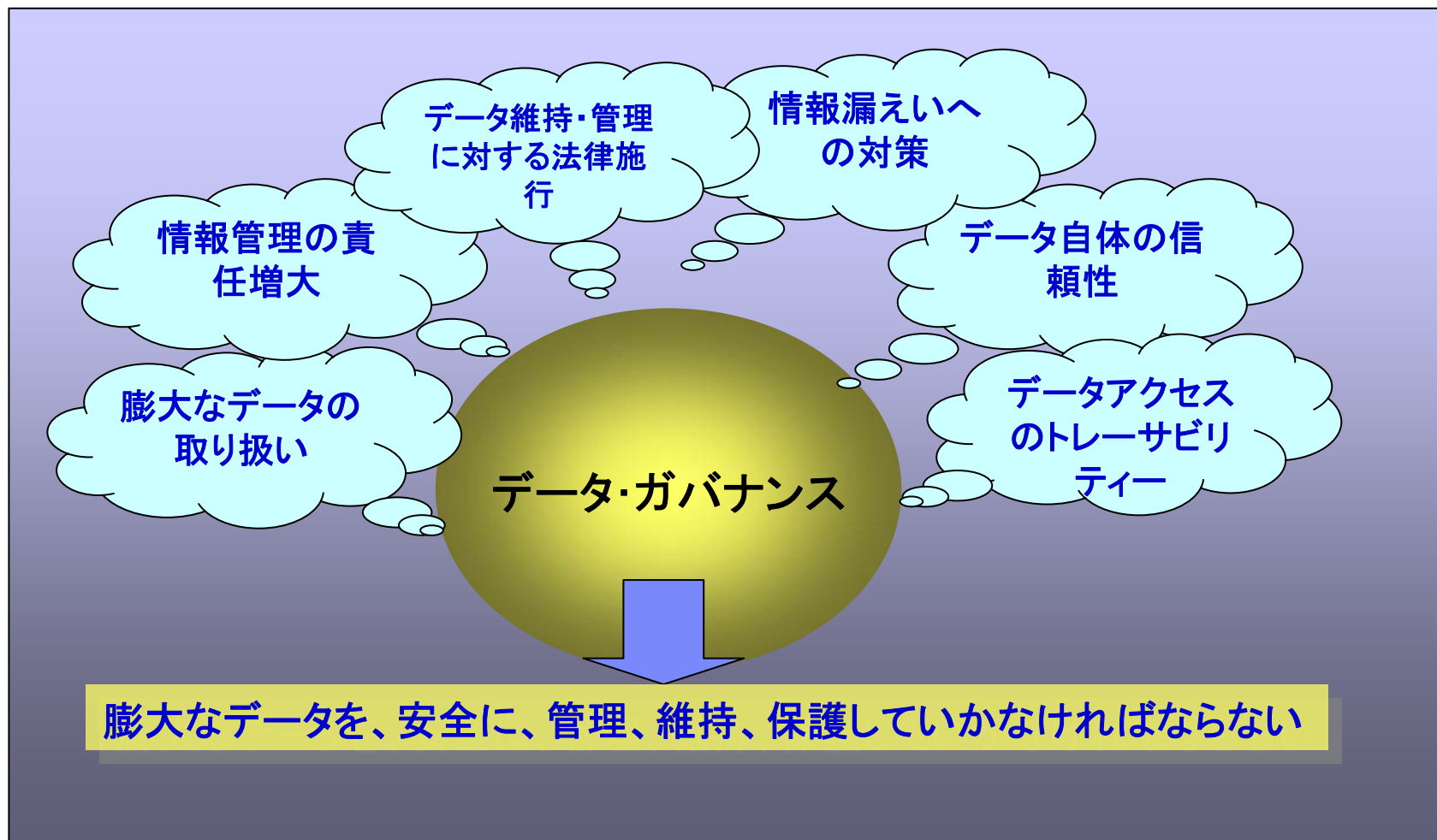




IBM Optim Products for z/OS
データガバナンスの必要性とOptim製品

Data Management

データ・ガバナンスとは…？

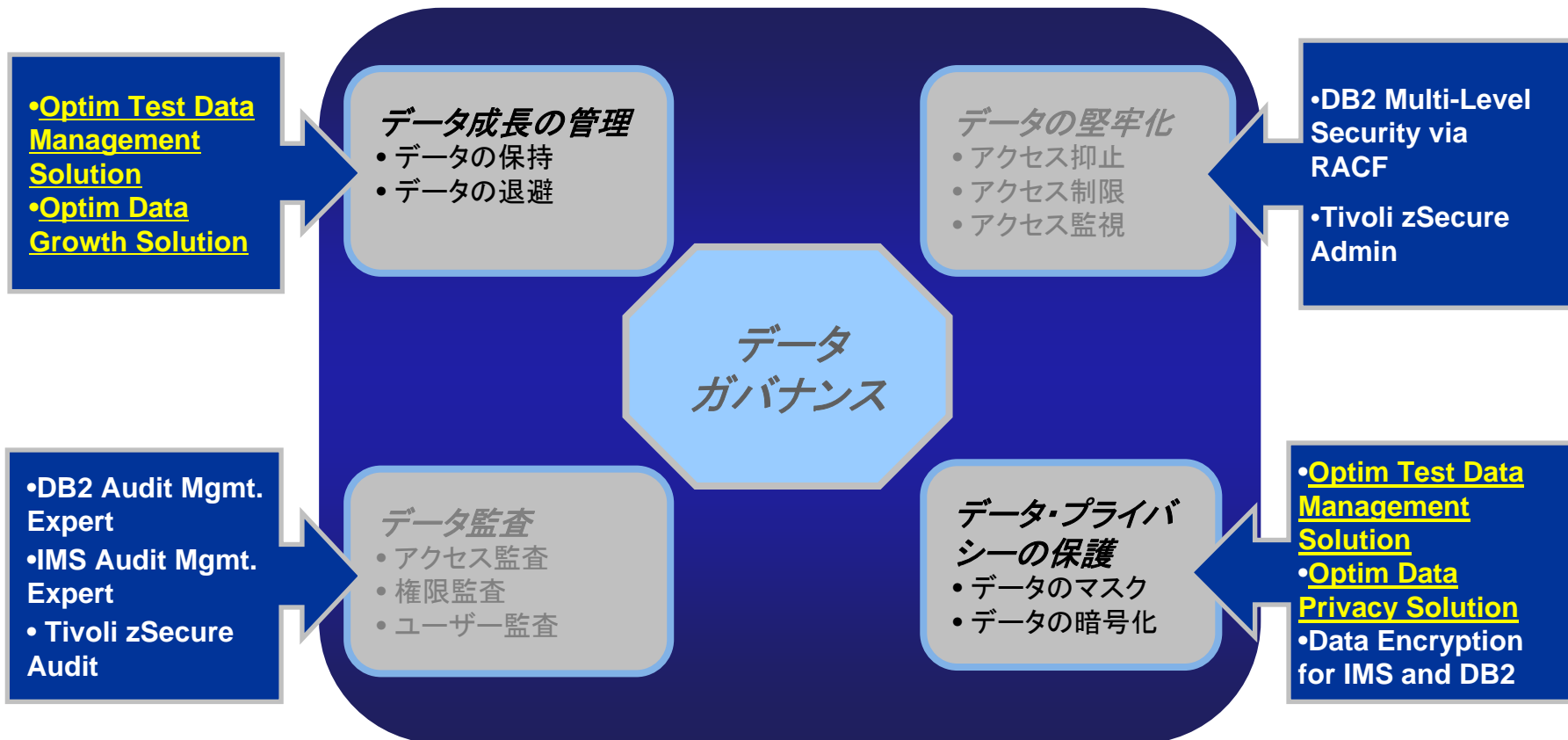


データ・ガバナンスに関連した主な規制

サーベンス・オクスリー法 (SEC)	株式公開企業	財務データの整合性/将来を見通す財務データの機密性/価値のある資産の保護
HIPAA (CMS)	患者の健康情報を取り扱う組織	患者の健康情報の機密性、整合性、可用性
データ侵害の開示 (Data Breach Notification) (30以上の州) SB		データ侵害に対する通知と
FISMA (OMB)		Standards and Guidelines (SG) ガイドラインに準拠している
グラム・リーチ・ブレイク法 (SEC, FTC, FDIC)		
J-SOX法		財務報告により内部統制強化を図る。財務報告の不正な取扱い等。
個人情報保護法	個人情報データベース等に記録される個人情報の数が500人以上の事業者	個人情報データベースあるいは漏洩時に主務大臣への報告を怠った場合刑事罰。
PCI DSS	カード会社、カード加盟店、プロセサ	VISA、MasterCardが策定したグローバルセキュリティ基準

日本国内でも個人情報保護法や日本版SOX法が施行され、個人権利利益の保護や内部統制強化が求められている

System z のためのデータガバナンス製品



IBM Optim プロフィール

• 沿革

- 1989年 Princeton Softech, Inc. 設立
 設立当初より複雑なデータ管理の問題解消にあたる
- 2007年9月 IBMが同社を統合、その製品をIBM Optimとして展開
 開始

• 実績

- 全世界に2,400の顧客（フォーチュンTop 500の半数で採用）
- エンタープライズデータ管理ソリューションのマーケットリーダー
 - データの長期保管
 - 個人・機密データ保護
 - テストデータ管理
 - アプリケーションのアップグレード / 廃止

Optimをご使用されているお客様

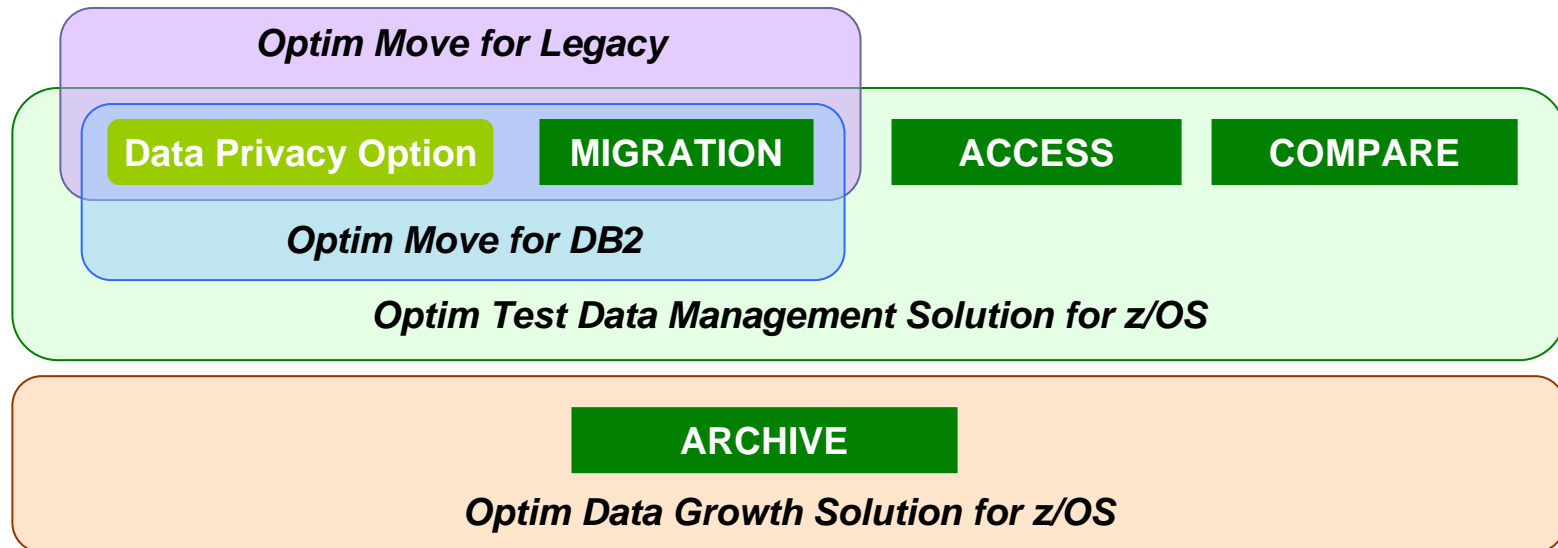


<http://www-01.ibm.com/software/data/data-management/optim-solutions/>

<http://www-01.ibm.com/software/data/data-management/optim/>

Optim z/OS版のコンポーネント

- **Optim z/OS版の製品には以下の4つのコンポーネントがあります。**
 - **MIGRATION** : あるデータソースから別のデータソース/ファイルにデータを移す機能
 - **COMPARE** : ルールに従い抜き出された2つのデータに差異がないか比較する機能
 - **ACCESS** : リレーショナル表にアクセスしデータを編集するための機能
 - **ARCHIVE** : DB上から別ファイルへとデータをアーカイブするための機能
- **これらのコンポーネントをソリューション毎にまとめた以下の製品が提供されています。**
 - Data Privacy Solution はz/OS版では Move もしくは Test Data Management の有料フィーチャーとなっています。
 - Move for Legacy はIMS/VSAM等のレガシー・データソースに対応した製品です。

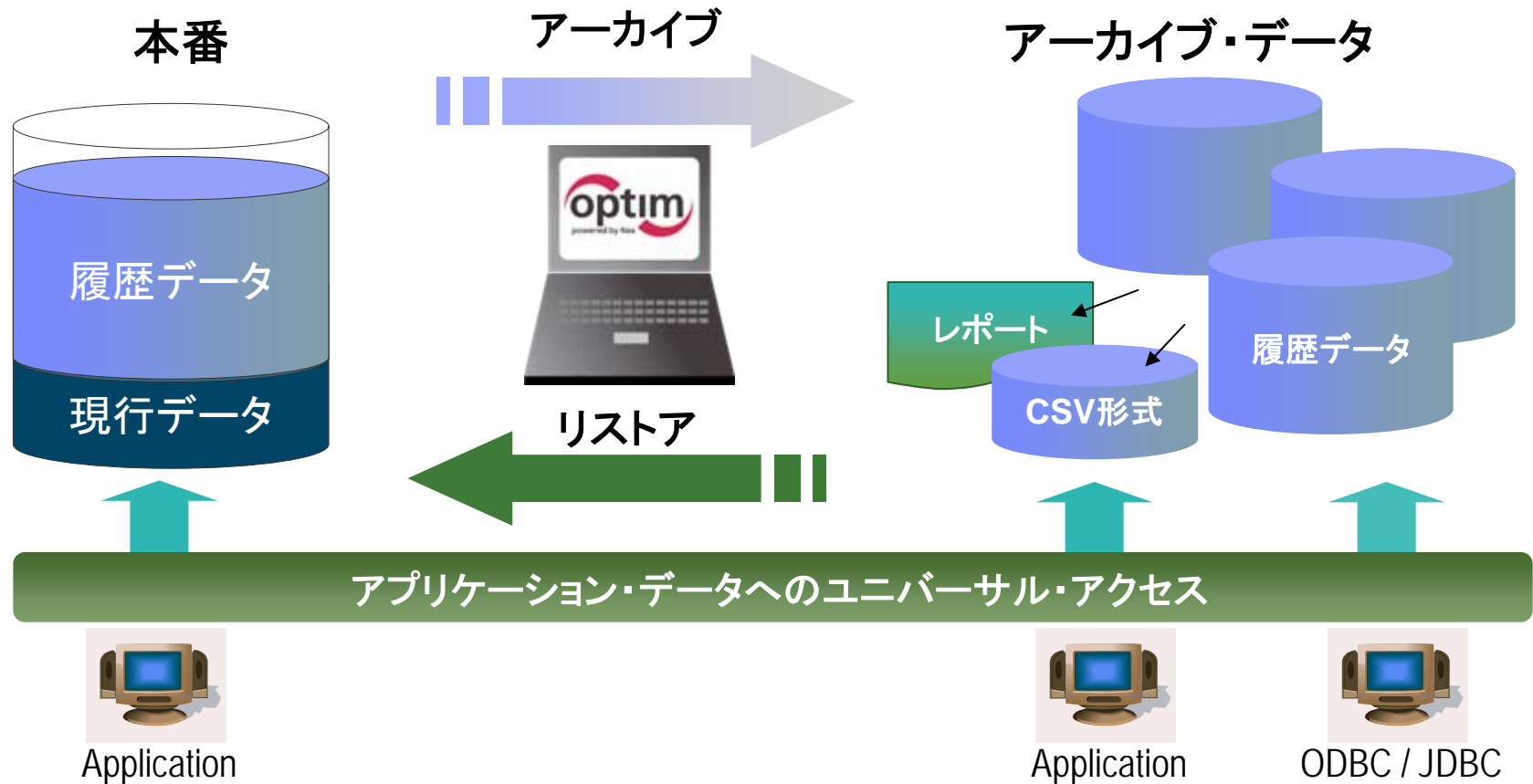


Optim製品の概要: Optim Data Growth Solution

本番データ管理における課題

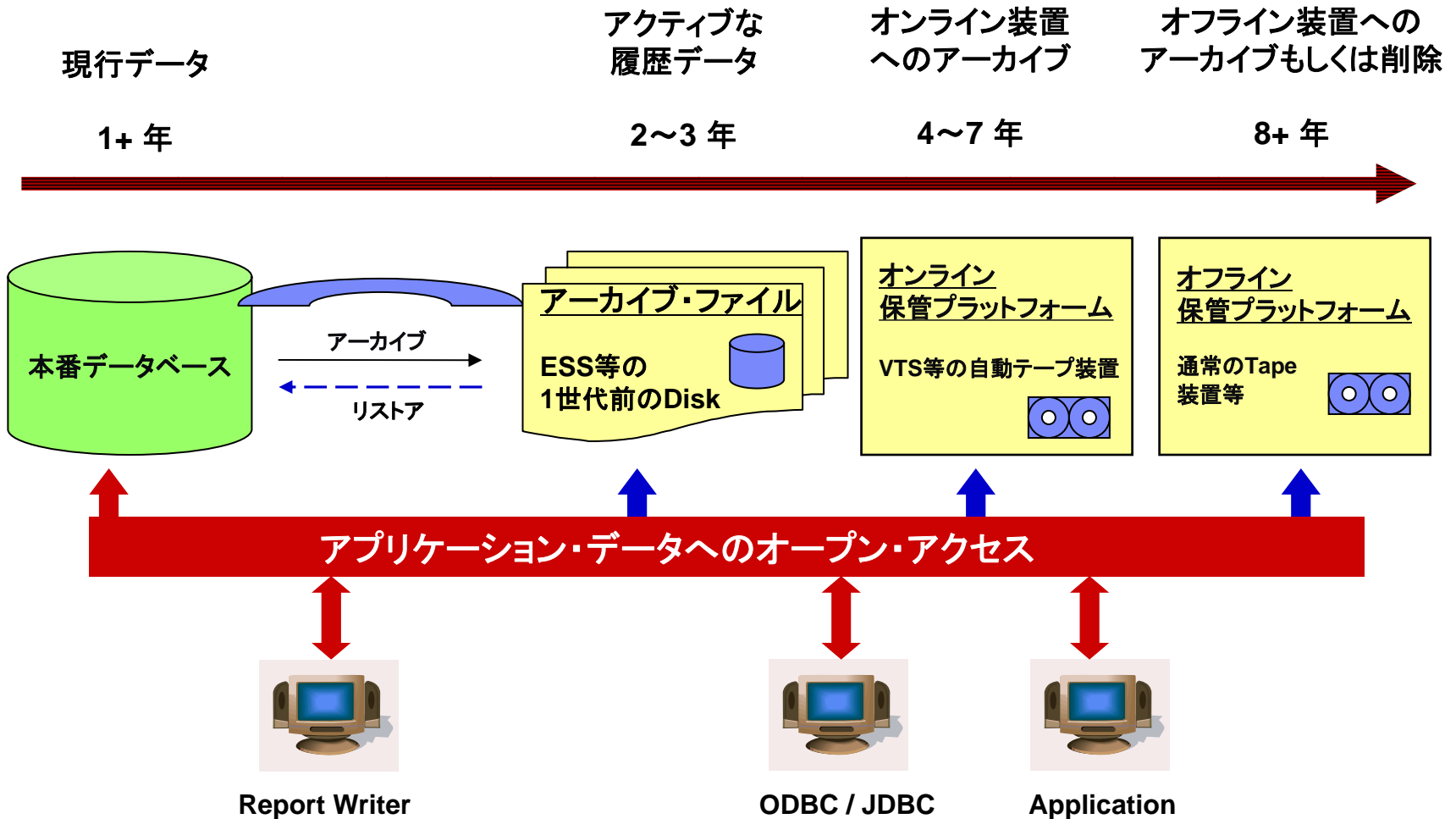
- 本番データの増大に伴い以下のような事象が発生してしまっている
 - ➡ アプリケーション・パフォーマンスの劣化
 - ➡ アプリケーションに必要なCPU、メモリー、ディスク等の稼動コスト増大
 - ➡ バックアップ時間の増大
 - ➡ バッチジョブの突き抜け
 - ➡ サービスレベルを遵守できない
- しかし法規制などへの対応により単純なデータ削減は出来ず、何らかの形でデータを長期間保持しておく必要がある。
 - ➡ 表からデータを抜き出して保管した場合、現行の表のレイアウトが変わってしまうと過去のレイアウトの情報が失われてしまう
 - ➡ 単一の表のみで抜き出した場合、コードを管理しているマスター表のデータも一緒に抜き出し保管しておかないとデータの意味が失われてしまう
 - ➡ 要請があった場合にはすばやく過去のデータを見れなくてはいけない

Optim™ Data Growth Solution の特徴

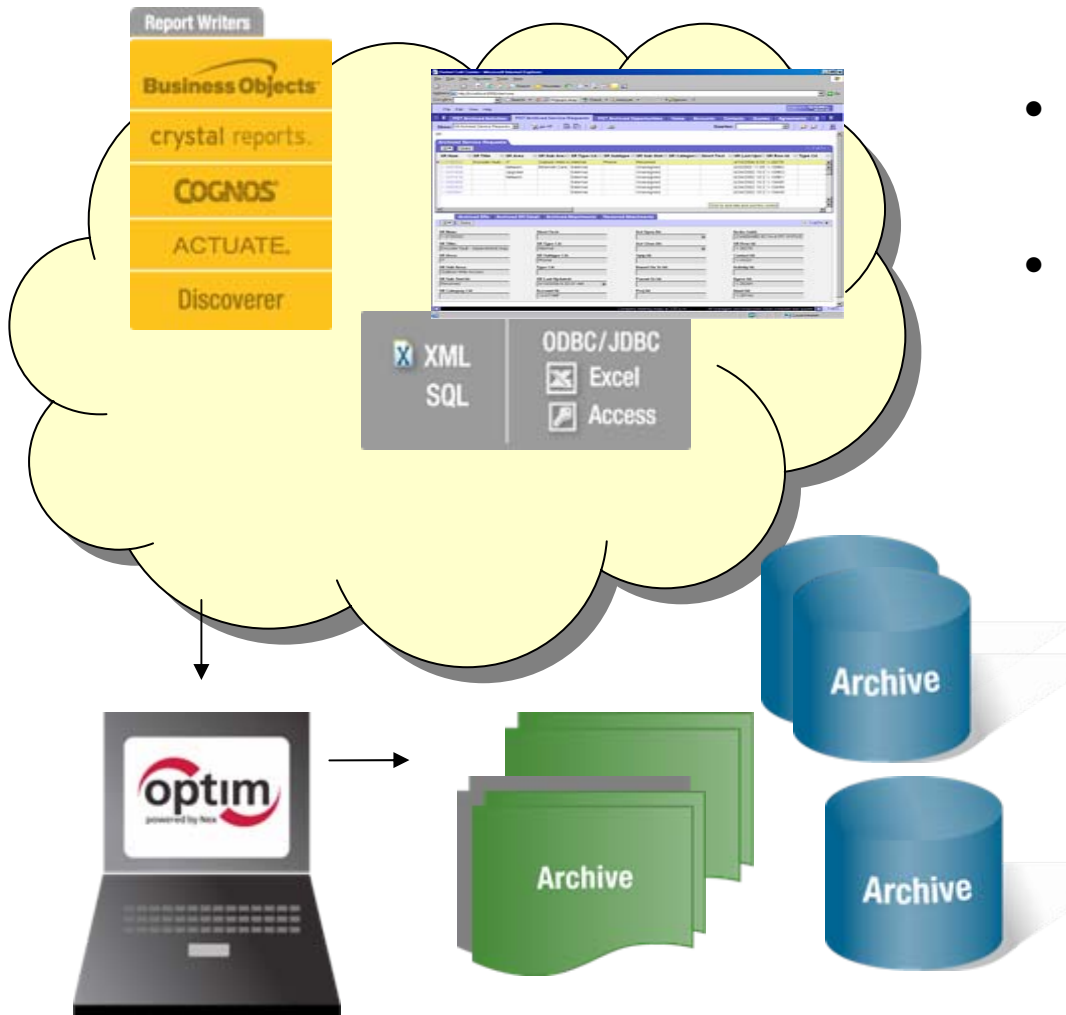


- ビジネス活動の履歴として参照可能なスナップショットを提供します
- 不変のファイル形式により、データ保持の遵守を可能にします
- アーカイブ・データへの様々なアクセス形態も提供します

Information Lifecycle Management の例



アーカイブ・データへのユニバーサル・アクセス



- ネイティブ・アプリケーション・アクセス
 - よく慣れた画面とプロセス
- アプリケーション独立なアクセス
 - 業界標準の方法:
SQL, ODBC/JDBC
 - ポータル
 - レポート・ライター: Crystal Reports, Cognos, Business Objects, Discoverer, Actuate
 - デスクトップ製品のフォーマット:
Excel, CSV, MS Access
 - データベース形式

アーカイブの調査



必要な時のみ
アーカイブ・データをリストア

アーカイブ・データへの直接アクセス:

- グローバルな検索
 - ユーザーが管理可能な索引
 - 単純/複雑な検索基準を利用可能
- インテリジェントな参照機能
- CSV、Text形式への変換
- 分散システムからのアクセスにはODM (Open Data Manager)と呼ばれるコンポーネントを使用

なぜリストアするのか？



以下のためにアーカイブデータを参照:

- 顧客サービス
- 質問への回答
- アーカイブデータの調査

以下のためにアーカイブ・データをリストア:

- 監査の状況によって
- レポートを生成するアプリケーション

事例紹介



事例；米國小売業のお客様 業務円滑化とストレージコスト削減

- アプリケーションパフォーマンスとサービスレベル改善
- プロセスとストレージコスト削減
- ダウンタイム短縮



Data Growth Solution

レスポンスタイム6割改善

高性能ストレージ100GB
見直し
(5年間で1800万ドル削減と推測)

バッチプロセス、
ダウンタイム短縮